

森林やまがた

No.215

2025. 1



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

新年のご挨拶 農林水産部森林シミクス推進課長	2
令和6年度第2回林業事業体体質強化研修会を開催	3
令和6年度川村造林記念山形県林業賞 長南伸一氏(庄内町)が受賞されました	4
最上地域スマート林業推進協議会の 令和6年度の取組	4
林業・木材産業改善資金のご案内	5
第38回山形県きのこ品評会開催	6
山形のシンボル「樹氷」の景観を次世代へ	7
みどりのページ 「森の教室どんぐりくんと森の仲間たち」を開催	8
菊地一郎氏が緑の少年団育成功労賞を受賞	9
東北・北海道地区の緑化功労者表彰 成沢グリーンフィールド協力隊	9
林業担い手確保の取組み 森林の仕事ガイダンス (東京国際フォーラム)に参加	10
国有林から 大井沢特定流域総合治山事業及び山間奥地の 工事個所における遠隔臨場の実施	11
普及情報 森林研究研修センターの「スマート林業の 導入に向けた取組み」	12
フォレスト通信 専門職大学・農林大学校から 未来のフォレスターたち	13
森の人紹介 志田 晋也さん・大山 進さん	14
生産量全国1位！原木なめこの魅力発信	15
むらやま木育普及促進の取組みについて	15
『チェーンソー防護ブーツ研修会』を開催	16
今年も力作が揃いました ～標語・ポスターコンクール～	17
庄内版「やまがた木育」の取組み	18
～庄内地域のスマート林業～ ドローン松くい虫被害木調査研修会開催	18
高性能林業機械メンテナンス研修会を開催	19
山形県の古木・名木	20

(表紙写真: 鶴岡市 龍澤山善賢寺の五重塔 (登録有形文化財))



新年のご挨拶

農林水産部森林ノミクス推進課長

福井 克

令和7年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から本県の森林・林業・木材産業の振興に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、4月から5月にかけて県内各地で林野火災が相次ぎ、置賜地域では約170ヘクタールの森林が焼失する大規模な被害が発生しました。また、7月下旬には記録的な大雨により、最上・庄内地域を中心に甚大な被害が発生し、森林関係においても、山腹崩壊に加え、林道施設、きのこ生産施設や苗畑施設でも多くの被害が報告されております。

県といたしましては、被災された方々の生活基盤の確保を最優先とし、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、引き続き全力を挙げて取り組んでまいります。

◆やまがた森林ノミクスの推進

さて、森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止、木材の生産等の多面的機能を有した大切な資源です。近年ではSDGsの実現への関心に加え、花粉発生源対策や脱炭素社会の構築に向けた森林吸収源対策として、森林・林業・木材利用に関わる活動に注目が集まっています。

このような中、県では、豊かな森林資源を積極的に活用し、地域活性化につながる「やまがた森林ノミクス」を宣言し、再造林の推進や加工流通体制の強化、公共施設等の木造化・木質化など、川上から川下まで総合的な対策に取り組んでいるところです。

近年は特に、森林整備を始め、航空レーザ測量などによる森林資源情報のデジタル化の推進や、木造設計を担う人材の育成、県内の森林空間を観光、教育等で活用する新たな森林産業の創出に向けた取組みを進めています。

これまでの成果として、令和5年の県産木材生産量は59万 m^3 、再造林面積は155haとなりました。林業労働生産性においても平成28年度の5.5 m^3 /人から令和5年度は7.2 m^3 /人に大幅に向上するなど、着実に取組みの成果が現れてきているところです。

林業労働力の動向としましては、本県の林業就業者数は約120人と、平成21年から令和5年にかけて横ばいで推移している一方で、令和に入り39歳以下の割合が3割を超え、新規就業者数も平成21年以降、約60人前後で推移しており、林業を担う若い人材が着実に増加してきております。そのような中、林業労働力の確保のためには、継続して新規就業者を確保するとともに、人材育成や労働環境改善等を通じて定着率を高めていくことが重要だと考えております。

また、昨年4月に新庄市に開学した「東北農林専門職大学」の森林業経営学科では9名の第一期生が意欲的に学んでおります。「林業」という枠を超えて、森林の多様な恵みをフル活用したビジネスである「森林業」の創出・展開が期待される中、優れた技術と経営力、国際競争力を持つ人材の育成にも力を注いでまいりたいと考えております。

一方、昨今の森林・林業を取り巻く情勢に目を向けますと、令和6年度から森林環境譲与税の財源となる「森林環境税」の課税が開始されました。森林環境譲与税は、令和5年度で譲与開始から5年となり、県内市町村では、森林環境譲与税を活用し、森林整備や木材利用、普及啓発等、地域の実情に応じた取組が展開されています。また、市町村が主体となって森林の経営管理を行う「森林経営管理制度」に基づく森林所有者への意向調査等も進められており、森林整備の更なる促進に向けた取組が行われているところです。

今後関係者の皆様と一丸となつて、やまがた森林ノミクスが目指す林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化に向け、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和6年度第2回林業事業体経営体質強化研修会を開催

◆はじめに

令和6年11月8日に今年度の第2回林業事業体経営体質強化研修会を開催し、林業事業体から21名、県市町村・関係団体等から23名の参加がありました。

◆目的

平成31年4月に始まった森林経営管理制度を進めるには、制度の実行の担い手となる林業事業体の経営力強化を図る必要があります。その一方で、多くの事業体が抱える課題として労働生産性の向上のほか、「慢性的な人材不足や業務の多忙化の解消等があり、制度を円滑に実施するための体制確保が課題となっております。

そこで今回、これまで様々な林業事業体の経営改善支援や人材育成カリキュラムの作成及び運営を手掛けてきたフォレスト・メディア・ワークス(株)の植崎達也氏から「『スマート林業』ではなく「スマートに林業」しましょう!」「効率化」の意味を理解していただけますか?」と題し講演していただきました。



講師の植崎達也氏

◆内容

講師の植崎氏には、今年の3月にも「林業事業体の『組織経営』を考える」と題して、林業事業体の組織経営についてお話しをいただきました。今回は様々なスマート林業ツールの実際の導入事例を交えながら、林業のIT化をどう進めたらよいか、そして、いかにして林業を魅力ある仕事にし、そこで働く人が幸せに暮らせるかについて、講義していただきました。

講義の前半では、演題「『スマート林業』ではなく「スマートに林業」しましょう!」の本意は、スマート林業という言葉があふれている



研修会の開催状況

が、言葉だけが先行していて、林業事業体の抱える課題の解決になっていないのではないかとのことでした。ドローンを導入したけれども業務に使わないで、ただ飛ばしている例やアプリを導入しても活用されていない事例を挙げて、今一番言いたいことは「『DX化・IT化』そのものを目的にしないほしい」と訴えかけました。

講義の後半では、具体的なスマート林業ツールについて、ドローンの

効果的な使い方やGNSS測量、路網作設ソフト、勤怠管理ソフト、デジタル日報などについて、メリットとデメリット、コスト計算など興味深い事例を紹介されました。特に強調されたことは、単に良さそうだから導入するのではなく、直面する課題を解決するために、課題に向き合っていくことが必要とのことでした。

最後に、業務の効率化にはITの活用は必須で、「スマートに林業」しましょう!」と呼びかけ、「僕は、組織を成長させるためには、スマートに林業は必須だと思っています。業務をスマートにこなせない会社からは人も離れるし、新しい人も来ないと思います」と結ばれました。

◆終わりに

2時間の研修では話しきれない内容を自身の経験を交えて、巧みな話しぶりで聞かせていただきました。参加者からのアンケートでは、「研修内容についてよく理解できた」、「効率化の話が目から鱗でした」という回答がありました。

今回の研修が、林業事業体の経営改善、業務の効率化のきっかけとなることを期待します。

〔県森林管理推進協議会〕

令和6年度川村造林記念山形県林業賞

長南伸一氏(庄内町)が受賞されました

◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年12月13日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、第23代知事として在任した川村貞四郎氏から寄贈された山林を基金として、本県の民有林業の振興・発展に顕著な功績のあった個人、団体を表彰するため、昭和39年に創設されました。

本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和40年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方は、個人68名、49団体、合わせて117者となっています。

◆長南伸一氏(庄内町)

庄内産スギ材の高品質な人工乾燥材の安定供給を目的として設立された「協同組合やまがたの木乾燥センター」の事務局長を務め、県内木材産業の振興と発展に大いに貢献され

ました。

また「酒田植物検疫協会」の事務局長として、海外からの病害虫の侵入を防ぐ検疫業務を通して、地域の健全な森林の保全に寄与されました。

表彰式



左から、星部長、長南氏、吉村知事、森田議長、福井課長

◆おわりに

このたびは受賞されました長南伸一様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県森林ノミクス推進課〕

最上地域スマート林業推進協議会の

令和6年度取組について

◆はじめに

県はスマート林業の実践と普及を図るため、県内の林業先進地である最上地域に、国、県、市町村、森林組合、森林所有者等による「最上地域スマート林業推進協議会」を組織し、集約化したモデル団地等でのデジタル技術・ICTを活用した手法、安全で高効率な機械等による木材生産、軽労化・省力化した低コスト再造林・保育技術などの検証を令和4年度から行っています。

◆今年度の取組について

協議会には2つの部会が設置され、それぞれの取組は次のとおりです。
「森林情報活用部会」では航空レーザー計測データを活用して、森林簿の樹種・面積・材積情報との比較及び作業道の線形を自動的に選定するソフトを使用しての作業道計画の効率化について検証を行います。

「スマート林業実践部会」では、下列の省力化・軽労化として、身体的な負担を軽減するアシストスーツ(非電動式)並びにペルチェ素子の金属板で背中から体を冷やす冷却

ベストによる検証及び丸太検収の省力化としてスマートフォンアプリ

を使用している検証を行います。なお、今回使用した木材検収アプリは画像認識による材積把握だけでなく、音声入力も可能となっており、従来の方法の一部変更による検証も行っています。9月12日には現地検討会を開催しました。



木材検収アプリでの検証

◆おわりに

検証結果については3月に開催される協議会において報告される予定です。今後もスマート技術の検証を実装につなげ、林業の更なる効率化を進めていきたいと考えます。

〔県森林ノミクス推進課〕

林業・木材産業改善資金のご案内

林業・木材産業改善資金は、新しい事業を始める、機械や設備を充実させる、働く環境を整えるなど、林業や木材産業の経営改善等を図るため、施設や機械の導入を行う場合に活用できる無利子の資金です。制度の概要と資金の内容についてご紹介します。

プ製造施設の導入など)

3 林産物の新たな生産方式の導入
生産性や品質の向上などに役立つ林業生産機械や木材加工機械を新たに導入する場合。

(木材乾燥施設の導入、木質バイオマス利用施設の導入、苗木運搬用ドローンの導入など)

4 林産物の新たな販売方式の導入
物流コストの低減や売上高の向上に役立つシステムや設備を導入する場合。

(販売管理システムの導入、原木の安定供給の実施など)

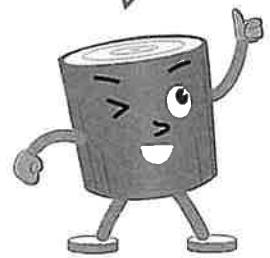
5 林業労働に係る安全衛生施設の導入

防振装置付きチェーンソー、電動式刈払機、自走式刈払機、玉切り装置、暖房装置付き人員輸送車、無線機器、休憩施設などを導入する場合。

6 林業労働に従事する者の福利厚生施設の導入

休憩室、更衣室、浴場、シャワー、トイレなどを備えた施設等を導入する場合。

無利子で
借りられます!



◆貸付限度額

林業事業者…個人1500万円
会社3000万円
団体5000万円

木材産業事業者…1億円
(限度額の特認あり)

◆償還期間

10年以内
(うち据置期間3年以内)
均等年賦支払

◆担保及び保証人等

次のいずれかの保証を受けることが原則となります。
・独立行政法人農林漁業信用基金
・山形県信用保証協会

◆貸付手続き

借入れをお考えの方は、借入を希望する取扱金融機関(山形銀行、きらやか銀行、荘内銀行、山形信用金庫、新庄信用金庫、米沢信用金庫、鶴岡

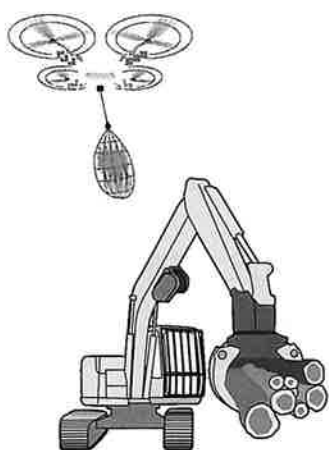
信用金庫、山形中央信用組合、北郡信用組合、山形第一信用組合)、最寄りの総合支庁へご相談ください。

◆申請書の提出期限

貸付希望日の約2カ月前(上記期日以前に金融機関、総合支庁にご相談ください)

《改善資金人気ランキング》

- 1位 グラップル
- 2位 フォワーダ
- 3位 バックホウ
- 4位 きのこ生産施設
- 5位 ハーベスタ・立木取得費



紹介したほかにも、創意工夫を活かしたさまざまな事業に活用できますので、林業・木材産業等改善資金をぜひご利用ください。

〔県森林ノミクス推進課〕

- ### ◆貸付対象事業
- 1 新たな林業分門の経営の開始
 - ・新たに素材生産業などを開始するために必要な機械や施設を導入する場合。
 - (しいたけ栽培の開始、コンテナ苗生産の開始など)
 - 2 新たな木材産業部門の経営の開始
 - ・新たに合板製造、集成材製造、チップ製造、木材市場業などを開始するため、必要な機械や施設を導入する場合。
 - (プレカット加工施設、木材チップ製造施設の導入など)

県産きのこのさらなる品質向上を目指して！ 第38回山形県きのこ品評会開催

○きのこ生産者の逸品が集結

令和6年11月28日（木）、29日（金）の2日間、第38回山形県きのこ品評会が、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に開催されました。



審査会の様子

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上、生産者の生産意欲の高揚を図ることを目的として山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。今年も県内各地から、生産者が丹

精込めて栽培した生しいたけ、なめこ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじ等、計41点が出品されました。

○最優秀賞は川崎好春さんに

1日目に開催された審査会では、横倉肇森林研究研修センター所長を審査委員長とする県、青果物卸売会社等からなる審査委員により、傘の形や厚み、色沢など数項目について審査が行われ、川崎好春氏（最上町）の生しいたけ（菌床）が最優秀賞の山形県知事賞を受賞しました。



県知事賞 生しいたけ（菌床）

○展示会、表彰式、即売会を開催
2日目には、展示会、表彰式と出品されたきのこの即売会が行われました。



受賞者の方々

「すごく色沢が綺麗！おいしそうだ！」と感嘆する声があがるなど、たくさん買い求める方々もおられ、山形県の栽培技術の高さを多くの皆様に感じていただくことが出来ました。

県では、今後も県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを支援してまいります。〔県森林ノミクス推進課〕



「山菜・きのこ」を食べて健康生活！
きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

山形のシンボル「樹氷」の景観を次世代へ

樹氷復活県民会議によるオオシラビソ林の再生

○オオシラビソ林の枯損

蔵王連峰の標高1,300mから1,700mの亜高山帯に多く自生する針葉樹であり、樹氷を形づくるオオシラビソ（別名・アオモリトドマツ）が、虫による食害などにより広範囲で枯れており、樹氷の存続が危ぶまれています。枯れ木でも樹氷はできませんが、葉や枝がないため、やせ細った形になっています。いずれこの枯れ木も倒れてしまい、被害地では樹氷が見られなくなってしまうかもしれません。また、特に被害の大きい地蔵岳山頂付近ではオオシラビソの稚樹が生えていないため、自然の力のみによる再生は難しい状況です。

○樹氷復活県民会議

「山形県民の宝」である樹氷の景観を復活させ、将来世代に手渡し、その恵みを脈々と守り続けることができるよう令和4年度に「樹氷復活県民会議」（事務局・県みどり自然課）を設立しました。

蔵王のオオシラビソ林は国定公園

内にあることから、周囲の自然環境を守りながら再生することが必要です。県民会議では、林野庁東北森林管理局山形森林管理署と連携し、環境の保全に配慮しながら苗木の育成や稚樹を現地に移植し育成していく活動を行っています。



オオシラビソの苗（2年経過）

○樹氷復活サポーター制度

樹氷復活に向けた取組みを推進するとともに、機運の醸成を図ることを目的に樹氷復活サポーター制度を設けています。樹氷復活県民会議の趣旨に賛同し、オオシラビソ林再生・樹氷復活のための活動に自ら取組み、または取組みを支援する企業・団体を対象とし、令和6年12月1日現在、

学校・観光協会・ホテルなど26団体が加盟しています。

樹氷復活サポーターが樹氷復活県民会議の主催事業に参加した様子を紹介します。

○稚樹の移植

山形市内の小・中学生と、オオシラビソ林の再生を課題研究する県立村山産業高校の生徒、計83名が移植活動を行いました。

子どもたちは、ユートピアゲレンデ付近（標高約1,400m）に自生する高さ20cmほどの稚樹を根鉢ごと掘り取り、地蔵岳山頂付近の移植地（標高約1,600m）に、再生への願いを込めて丁寧に植えつけました。令和6年度は稚樹移植活動を3回実施し、延べ122名が計65本の稚樹を移植しました。



蔵王温泉スキー場での稚樹移植活動

○環境体験学習

上市市立中川小学校の5年生12名が蔵王坊高原でオオシラビソを含む自然環境を観察し、稚樹の生育を助ける笹刈りを体験する学習活動を行いました。

子どもたちは笹藪に分け入ってオオシラビソの稚樹を探し、剪定バサミで稚樹の周りの笹刈りを行いました。

オオシラビソが成木になるのは50年以上先の未来です。樹氷復活県民会議では、今後も蔵王の樹氷を次世代へつなぐために、息の長い取組みを行っていきます。

〔県みどり自然課〕



蔵王坊高原での環境体験学習



みどりのページ

「森の教室どんぐり
くんと森の仲間たち」
を開催しました

公益社団法人国土緑化推進機構と

各都道府県緑化推進委員会が主催する「森の教室」は、幼稚園や保育園に赴いて、森林の役割や大切さを伝える巡回教室です。日常生活の中で、森林を守り、育てることの必要性を実感・実践できる場として、園児から家族へ、そして地域へと広げ、緑豊かな環境を次世代に受け継ぐ、途絶えることのない緑化運動を目指して開催されています。株式会社ファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」により行われており、昨年度までに44都道府県で開催され、今年度山形県内では、3つの園で458名の園児が参加しました。

① 11月11日(月)

学校法人法音学園

幼保連携型認定こども園

米沢西部こども園(米沢市)

参加園児数 178名

② 11月12日(火)

学校法人松原学園

幼保連携型認定こども園

ひばりが丘幼稚園(米沢市)

参加園児数 174名

③ 11月13日(水)

学校法人不動学園

幼保連携型認定こども園

寒河江第二幼稚園(寒河江市)

参加園児数 106名

園児たちは、キャラクターショーに参加し、森づくり名人「どんぐりくん」と森づくりAIロボット「ふあみたん」、司会進行役の「森のお姉さん」と共に、大きな絵本を使って、光合成による二酸化炭素の吸収や森林の循環、緑のダムについて勉強したり、動物の足跡クイズやダンスを楽しんだりしました。



緑のダムの説明

動物の足跡クイズでは、園児たちが森に生息するシカやクマなどの足

跡を当てていました。森のダンスでは「どんぐりくん」と「ふあみたん」と一緒に体を大きく動かして踊りました。ダンス終了後には、森の教室で学んだご褒美として、木製の魚釣りセットと塗り絵ハガキ、森の教室のダンスDVD、CDのプレゼントがありました。その後、「どんぐりくん」、「ふあみたん」との記念撮影も行いました。



動物の足跡クイズ

イベントの最後には、園のみんなが育ててもらったために、コナラやクヌギなどのどんぐりの種類や、どんぐりの芽や根のつき方について勉強し、どんぐり(コナラ、クヌギ)の播種を行いました。



コナラの播種

来年度も、森の教室開催に向け調整を図って参りますので、ご希望がある保育園・幼稚園等がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



プレゼントの贈呈

菊地二郎氏が 緑の少年団育成成功労賞を受賞

公益社団法人国土緑化推進機構が授賞する令和6年度緑の少年団育成成功労賞に、菊地二郎氏（大江町）が選ばれました。

この賞は、緑の少年団の育成に顕著な功績をあげ、他の模範となる団体・個人を表彰するもので、県内からの受賞は5年連続となります。

菊地氏は、大江町緑の少年団の活動において、森林を伐採して利用する視点だけでなく、生き物の生息調査や木を自分で加工して物をつくる創造力の向上等、森林の多面的機能を肌で実感できる機会を設けて指導されてきました。

西山杉の間伐見学の場として自身の所有林を提供されたり、講師として間伐をすることの意味や伐採した木が今後どのように使われていくかを解説されたりするなど、小学生の森林学習並びに森林保全の啓発に尽力されてきました。

西山杉を活用した「大江町型住宅」の見学では、住宅の建築過程や西山杉の特性について、図を使った解説を行い、身近なものに木が使われていることや森林の恩恵を享受して人々が日々生活を営んでいるとい

うことを熱心に伝えてこられました。菊地氏のこのようなご功績に敬意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念いたします。



少年団を指導する菊地氏(左)

東北・北海道地区の緑化功労者表彰 成沢グリーンフィールド協力隊

10月24日（木）に宮城県仙台市で開催された東北・北海道地区緑化推進協議会において緑化功労者表彰式が行われ、各道県から8団体・個人が表彰されました。本県からは、山形市の成沢グリーンフィールド協力隊（鈴木政勝隊長）が受賞されましたのでご紹介いたします。

成沢グリーンフィールド協力隊は、平成18年2月に山形市成沢地区の住民を中心として設立され、現在は80名の隊員が活動しています。設立当初から地元の小学校や高校と連携し、

自然観察会や森林学習活動等を18年にわたって実践しています。

年2回の二ツ沼周辺の下草刈りによる景観維持に加え、地元小学校や高校の学習として、児童・生徒と共にこのこの植菌から収穫までを指導しています。収穫時には児童たちと自然観察会を行い、地域の自然や森林を守り育てることの大切さを直接伝える森林環境学習活動に力を入れています。

さらに、緑の募金街頭キャンペーン出発式において、募金活動の協力団体として、緑の募金の普及啓発などの幅広い活動を行っており、今回の受賞に繋がったものと思います。

成沢グリーンフィールド協力隊のこのようなご功績に敬意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念いたします。



表彰状を受け取る鈴木隊長

（公財）やまがた森林と緑の推進機構

緑の募金にご協力いただいた企業・団体の皆様 (R6.10.1~R6.11.30)

（やまがた森林と緑の推進機構取扱い分）

(株)アオバヤ、秋葉商店(有)、(株)阿部林業、衣袋建設(株)、エムテックスマツムラ(株)、M木工、海藤林産、(株)金子建設、北日本特殊イサベラ建設(株)、(株)キヨソミ産研、クリーンサービス(株)、(有)クリーンセンター七五三、小白川建設(株)、(有)小関興業、(株)三洋、庄内環境緑化事業(協組)、JA庄内たがわ、森林研究・整備機構森林整備センター山形水源林整備事務所、(株)大栄、(株)大和、(株)高橋組、(株)デンソー山形、(株)東北工材、(株)東北消防設備、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)内外ビルクリーン、(株)ナルセ、日本地下水開発(株)、(株)丸江製作所、(有)丸光建設工業、三ツ和工業(株)山形工場、(株)メコム、(一財)山形県理化学分析センター、山形商工会議所、山形電子(株)、山建工業(株)、山新建装(株)、(株)横山測量設計事務所、(株)ライナー、ロータス山形(株)

(敬称略、五十音順)

◎他、9月には匿名の方から多額の募金をいただきました。この欄でご紹介させていただき感謝の気持ちをお伝えできればと思います。

ご協力ありがとうございました

林業担い手確保の取組み 森林の仕事ガイダンス(東京国際フォーラム)に参加

◆森林の仕事ガイダンスとは

森林(もり)の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保を目的に、森林・林業への就業に関心を持つ方を対象に実施する仕事の説明・相談会です。会場では各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明のほか、参加者からの林業や地域での生活などの疑問について相談に応じます。

全国の都道府県が参加して、一度に全国各地の情報が収集できる中央ガイダンスと、地域(都道府県など)の情報を得ることが出来るエリアガイダンスを毎年開催しています。

◆ガイダンスの様子

本年度の中央ガイダンスは、9月21日～22日の二日間、有楽町にある東京国際フォーラムで開催されました。また、山形県でのエリアガイダンスは、令和7年1月24日(金)に、山形国際交流プラザビッグウイングで開催する予定です。

県林業労働力確保支援センターでは、9月に開催された中央ガイダン

スに参加してきました。

会場には、来場者が林業を始めた方のインタビュ動画を見るコーナーや、フォレストワーカーのトークショー、ハーベスタのシミュレーターでの体験コーナーなどが設けられ、林業の知識のない方々に林業を知っていただくよう工夫されていました。各都道府県には相談ブースが割り当てられ、ポスターなどを掲示して来場者の興味を引くようアピールしていました。

今年のガイダンスは、「移住」や「地方暮らし」の相談会「ふるさと回帰フェア」の開催に合わせて同じ会場で開催されました。ふるさと回帰フェアは、例年約2万人の方々が来場するビッグイベントです。ふるさと回帰フェアに来られた方が合せて森林の仕事ガイダンスにも来場していただけるようにとの考えからの開催でした。

結果として、本年度のガイダンスには、全体で697名の相談がありました。

本県の相談ブースには、男性3名、女性2名の計5名からの相談がありました。居住地は、東京都2名、神奈川県2名、千葉県1名、職業は会社員2名、派遣職員1名、無職2名でした。例年よりも少ない相談者数でしたが、3連休のためか全体的にも来場者は少なかつたようでした。

相談は、相談者が記載する相談シートを受取りそれに基づき聞き取りながら進めていきます。

◆相談内容

相談者からは「実家の山形に戻り林業で働きたいが、山形県の林業の状況を聞きたい」、「冬は新潟県でスノーボードのインストラクターをしているが、冬以外で林業の仕事があるか」、「2年後に退職となるが、好きな山形県の酒蔵の近くで農林業に従事したい」など、東京での相談は毎年多様な職業や背景の方々の相談があり、こちらが勉強させられる機会でもあります。

相談者には、当センターで作成している「林業事業体ガイドブック」で本県の林業の状況や森林の仕事の内容と県内の認定林業事業体の概要などを説明し、当センターのHPで求人情報を見て就職の希望があれば、当センターに連絡されるよう対応しました。

◆むすびに

本年度の相談者は少なかつたですが、少しでも当県の林業の情報を発信し、林業就業支援講習や1日体験のマッチング支援事業とも連携し、事業を進めてまいりたいと思います。

〔県林業労働力確保支援センター〕





国林から

大井沢特定流域総合治山事業及び山間奥地の工事箇所における遠隔臨場の実施

山形森林管理署は、山形県中央部から東部に位置する村山地域の7市5町の国有林約7万7千ha（村山地域の森林の約46%）を管理経営しております。

近年豪雨災害の発生が頻発しておりますが、今回は当署の取り組みの中から「大井沢特定流域総合治山事業」及び「山間奥地の工事箇所における遠隔臨場の実施」を紹介いたします。

◆大井沢特定流域総合治山事業◆

「特定流域総合治山事業」の主な採択基準は、①森林面積が100ha以上で30%以上が保安林に指定されている②民有林を含む一帯の荒廃山地で事業規模が2億円以上③1級又は2級河川の上流で民有林・国有林一体として実施する事業の場合に適用される制度となります。

平成25年度の集中豪雨により西村山郡西川町において、24時間雨量が249mmを記録し寒河江ダム上流域の多数の沢で渓床荒廃が発生し大量の不安定土砂が流出し、民有林においても被害が発生していたことから、山形県と共に大井沢特定流域総合治山



事業として復旧計画を策定し、荒廃地の復旧、下流域への不安定土砂の流出防止を目的として、平成27年度から事業を本格的に実施してきました。当初計画では令和3年度までの7年間で整備する計画でしたが、この間においても平成30年度、令和2年度の大雨等の影響もあり、順調に進捗したとは言えない状況の中、今年度の施工箇所 completion により山形県・当署ともに事業が完了する見込みとなっております。

◆山間奥地の工事箇所における遠隔臨場の実施◆

現在、森林管理署発注工事では工事現場における遠隔臨場を、受注者が希望した場合等で試行しています。

通常の工事現場の段階確認・材料検査・立会業務等については、日時を決め現地に監督職員が出向き、各種確認を行ってききましたが、遠隔臨場では双方方向通信により監督職員が現場に行かなくても、職場のモニター等で工事現場の確認を行うことで、発注者側はもちろん受注者側にも待ち時間の短縮など業務効率化を図ることが出来るため、受発注者ともに働き方改革の促進と生産性の向上が可能となります。

当署における治山事業では、前段で紹介した特定流域総合治山事業を始め山間奥地での工事が多く、携帯電話やインターネット通信環境がない箇所が多々あり、遠隔臨場については実施することが難しい状況でしたが、今年度施工したヤナバシ沢治山工事で低軌道衛星を活用したインターネット通信を使用し、遠隔臨場を実施しました。この低軌道衛星を活用した通信技術は、通信環境が整備されていない山間部でもアンテナ等を設置することにより、インタ

ーネットの接続が可能となり遠隔臨場はもちろんのこと、携帯電話・ネット等がつかない工事現場で災害が発生した場合、会社等に遅滞なく連絡が可能となるなど安全面からみても重要な通信技術となります。

現在、山形県内の森林管理署発注工事では、遠隔臨場が実施されていないことから、11月29日に村山総合支庁森林整備課、山形県内各森林管理（支）署及び山形署管内各事業体にお声がけさせていただき遠隔臨場の実演等の勉強会を実施しました。

参加された方からは「遠隔臨場の実演等を実際に見て、きちんとしたイメージを持つことができ、今後の工事施工箇所への導入を考えるうえで参考になった」等のご感想があり、今後も森林土木工事での業務効率化等のため、情報発信ができるよう努めてまいります。（山形森林管理署）





普及情報

森林研究研修センターの「スマート林業の導入に向けた取り組み」

【はじめに】

近年の森林・林業・木材産業を巡る大きな変化として、令和元年度から森林経営管理法に基づく森林経営管理制度が導入されるとともに、森林環境譲与税の活用が始まりました。

また、人口減少・少子高齢化が急速に進む中で、ICT等の先進的な技術を活用したスマート林業などの林業イノベーションを推進し、生産性・安全性・収益性を向上させることが急務となっています。このような社会情勢の変化に対応するため、昨年度、センターの機能強化について取りまとめて、今後の方向性を示したところですが、その中で、「スマート林業の導入に向けた林業経営体等への速やかな技術移転と人材育成」を今後の重点テーマとして掲げ取り組んで行くこととしました。

【スマート林業技術の導入・推進】

● 施設整備

ICT技術等を活用したスマート林業は、森林調査の労力削減や安全性の向上及び林業経営の効率化等が見込まれることから、これら研修の実施のため、今年度、西川町の試験

実習林内に衛星通信機器 (Starlink) を設置し、通信環境を整備しました。これにより、試験実習林内での、様々な機器を使つてのICT技術の研修が可能となりました。

● 研修カリキュラム作成

日々進化するICT技術に関する専門的な知識・技術を有する県の森林技術職員がいない状況にあることから、最新技術と活用ノウハウを有する民間企業と連携し、ICT技術の基礎知識や、森林資源調査・路網作設技術等習得のための効果的な研修カリキュラムを、今年度作成しました。これによりスマート林業に関する研修内容が確立されました。



設置した Starlink

【研修実施】

令和6年11月11日(月)、12日(火)の2日にわたり、西川町の試験実習

林で実施し、県職員4名、林業経営体職員6名が参加しました。山形県森林調査協会から3名の講師を招き、座学では、森林(林業)におけるICT技術の概要について学びました。また、実習では、ICT技術を用いた森林調査・路網調査の手法について研修を行いました。

森林調査では、昨年度の全国林業グループコンクールで農林水産大臣賞を受賞した、大江町光林会の活動「スマホ持って所有林を探しに行こう」の普及を兼ねて、スマートフォンの「マップル法務局地図ビューア」を表示させ、試験林内の作業道の位置や、境界の確認などの実習を行いました。参加者の方々は、その精度の高さや、便利な使い方に驚いていました。



スマホを使った森林調査

また、LiDARSLAM(全周囲を測定できる機器で、樹高や直径等が容易に判別できる)を用いた森林調査の実習では、専用のアプリを用いることで計測中の点群データがリアルタイムで3D表示されることを知り、参加者からは、「かなりの労力が軽減されることを学んだ。所属で実践していきたい」などの声が聞かれました。

今回の研修を通じて、受講者は最新の機器について学び、その使い方も実習したことにより、ICT技術への理解が深まりました。



LiDARSLAMを使った森林調査

【おわりに】

今回の研修の反省点も踏まえ、研修カリキュラムの内容を精査し、来年度の研修をより充実させるよう努めてまいります。

「森林研究研修センター」

◆附属農林大学校林業経営学科

11月になり、1学年は座学や実習に励み、2学年は卒業論文の完成に向けて頑張っています。今回は2学年の県外視察研修の様子をお伝えします。

○県外視察研修について

2学年は11月13～15日の2泊3日で、宮城県、東京都へ視察研修に行きました。日本初(当時)7階建て純木造ビルや都心部の人工林に触れ、新たな知見を得ることが出来ました。1日目宮城県仙台市に建築された「高惣木工ビル」では、JAS製材品を束ね柱(複合圧縮材)、合わせ梁の技術で建築した高層ビルを視察、地域の木材を使用し、建築コストが安価、省エネルギーで環境にやさしいなど鉄筋コンクリートで建築されたビルと比較して多くのメリットがあることを知りました。

2日目東京オリンピックピックの会場である国立競技場では、競技場内を見学するツアーに参加して、競技場外側で使用されている木材や室内の木質化の様子、軒庇に使用されている



国立競技場での一コマ

47都道府県の木材など特徴のある木材の使い方を見学し、新たな木材の使い方を学ぶことが出来ました。

3日目明治神宮を訪れ、1920年(大正9年)に創建された内苑(林苑)が人工林で、全国から寄せられた献木11万本を青年団など全国から

参加したボランティアが植栽し、その後105年間自然の遷移に任せて伐採を行わずに管理されていることなど

の説明を受け、学び多い研修となりました。

〔附属農林大学校〕

◆専門職大学 森林業経営学科

本学科は、全国でも半世紀ぶりに設立された森林・林業に関わる新学科で、森林や林業、木材利用、環境政策等に関する職業専門科目のほか、ビジネス英語や統計学などの基礎科目から、デザイン論や建築学など応用力や創造力を高める展開科目、そして国際森林業論までの幅広い分野を学び、将来、森林のさまざまな恵みを生かすビジネス「森林業」を展開する人材の育成を目指しています。

秋は大学祭のシーズンです。11月3日大雨の悪天候中、農林大学校との共催で初めて実施されました。森林業経営学科は、学科紹介展示と模擬店販売を行いました。学科紹介展示では講義・実習カリキュラム紹介及び実習内容の展示(樹木実習の植物標本など)を、模擬店販売は、石窯薪焼き最上(もがみ)ピザ(農業経営学科と共同開発)とヤマブシタケの唐揚げ(学科独自)を実演販売しました。ピザは、農場で収穫後に残った調理用トマトを使って農業経



石窯薪焼き最上(もがみ)ピザの試作の様子

営学科の学生と教員がピザソースを調理し、森林業経営学科の学生と教員が石窯作成、サクランボの木の剪定枝の薪を利用したピザ焼きを担当しました。唐揚げは、実習訪問先のキノコ工場からヒントを得て、ヤマブシタケの唐揚げを学生らが選択し、それに合う唐揚げ粉を調整して揚げたてアツアツを提供しました。ピザも唐揚げも大好評で、両方を買いたい来訪者もいました。来年はさらにバージョンアップした内容を期待しています。

〔東北農林専門職大学〕

森の人紹介

合同会社ウッドラック

志田 晋也さん (庄内町)



合同会社ウッドラックの代表である志田晋也さんを紹介しま

す。志田さんは酒田市の出身で、森林組合の作業員として現場の経験を積んだ後、令和5年に独立し、合同会社ウッドラックを新たに設立されました。

▼会社の概要について

現在の職員・作業員は計4名で、主伐・間伐の素材生産のほか、植栽から下刈り等の保育作業や松くい虫防除まで、幅広く事業を実施しています。さらに、ドローンを活用した測量・解析等にも積極的な取り組みを行っています。

志田さんに起業したきっかけを聞くと、「地域を守る仕事をしたいと考えていて、庄内の自然・森林を守る仕事が林業だと思った。調べるうちに、林業の大切さやかつこ良さ、

将来性が見えてきたので、この仕事を始めた。」との答えがありました。また、「自分で会社を設立することで、林業のもっと深いところを体験したいと思った。」と非常に意欲的です。

そんな志田さんに、仕事のやりがいについて聞くと、「仕事を通して、他の事業者の人と話をしたり、現場の問題をクリアしたりして、色々な人と携わることが一番面白い。現場で困難なことがあっても、それを皆で乗り越えることが面白い。」と、やはり前向きな回答でした。

▼今後の抱負について

今後については、「人が大事なので、若い人を育てていきたい。」「地域のためにできること」を社内で話している、それをモットーに森林経営計画の作成やドローン等の新しい技術にも積極的にチャレンジしながら、地域を守っていきたい。」とのこと。

さらに、将来的には作業員を増やし高性能林業機械を導入し、森林経営も行いたい、苗木生産にも興味があるなど、将来への夢は尽きません。今後も、林業への熱い想いを保ちながら、庄内地域の次世代を担うリーダーとして、幅広く活躍されることを期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

タラノメの栽培技術を新規参入者へ指導

大山 進さん (戸沢村)



大日本山林会主催の令和6年度全国林業経営推奨行事において、戸沢村の指導林業士大山進さんが農林水産大臣賞を受賞されました。

大山さんは、昭和39年から50年以上の永きにわたり林業に従事し、山形県指導林業士会最上支部長をはじめ、角川県営林の巡視員、最上地域林業振興協議会委員、県間伐コンクール審査員などを務め、最上地域の林業振興と森林行政の推進に貢献されました。

その指導林業士としての知識を活かし、タラノメやふきのとう、ワラビ等の多品目の山菜産地化に取り組み、平成12年からは、JAもがみ園芸生産組合の促成部会長を務められました。また、大山さん自らがタラノメの穂木の生産・提供を行うと

もに、タラノメの栽培技術の普及に必要なマニュアルを最上地域で初めて作成するなど、新規参入者への技術指導にも尽力され、全国第一位の生産量を誇る本県のタラノメの生産拡大に大きく寄与されており、近年は、社会福祉法人にしいたけ、きくらげ等の原木を安価で提供するなど、地域貢献にも尽力され、さらには、山形県立農林大学校の実習生を受け入れ、タラノメの促成栽培を指導するなど、後継者の育成にも大きく貢献しております。

以上の業績、地域への貢献度、行政との協調性などのいずれも優れた実績が認められ今回の受賞に繋がりました。

令和6年11月7日(木)に開催された第63回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式では大山さんが、総裁である秋篠宮皇嗣殿下からお言葉を頂戴いたしました。

「今回の受賞が林業経営される方々の一助になれば」と大山さんは謙遜し語られました。しかし、その言葉には、これからは森林施業やタラノメ生産を担う次世代の育成に力を注ぐという強い情熱を感じられました。

〔最上総合支庁森林整備課〕

生産量全国1位！原木なめこの魅力発信

◆はじめに

豊かな森林資源を活用して栽培される原木なめこは、山形県が全国1位の生産量を誇ります。県内有数の生産地である寒河江市と西川町では、今年も収穫の時期に合わせ、原木なめこの魅力を発信する取組みが行われました。

◆寒河江市幸生で収穫体験

春に植菌の研修会（森林やまがた No.213に掲載）を行った寒河江市幸生で、10月31日（木）に原木なめこの収穫体験を開催し、シンガーソングライターの庄司紗千さん、若手農家や飲食店関係者ら14名の方にご参加いただきました。体験後の試食では、参加者から、その大きさや味わい深さに驚く声が聞かれました。



大ぶりのなめこを摘み取る
庄司紗千さん

◆西川町で学校給食への提供

11月13日（水）に西川町の主催により、西川町内の小中学校において、原木なめこの味噌汁が給食に提供されました。このなめこは地元の「西川町きのこ等生産協議会」が生産したもので、この日は生産者も西川小の児童と一緒に給食を楽しみました。児童たちは、熱心に生産者の話を聞いていました。

◆おわりに

秋の味覚として人気を集める原木なめこですが、生産者の高齢化により担い手の確保が課題となっています。ご興味のある方は、是非原木なめこの栽培に挑戦してみませんか？

〔村山総合支庁森林整備課〕



なめこの味噌汁を味わう
西川小の児童

むらやま木育普及促進の取組みについて

◆はじめに

村山総合支庁では、平成29年度より、木に触れる体験を通じて木の良さや木を使うことの大切さを伝えるため、木育プログラムの開発や管内の子育て支援施設等と連携した取組みを行っています。

◆今年度の取組み状況

令和5年度までに15種類のむらやま木育プログラムメニューを開発し、職員出前講座等により子育て支援施設やテーマパークなどで実施しています。今年度は上山市の「リナワールド」にてコマを、寒河江市総合子どもセンター「ゆめはーと寒河江」でフォトフレームを、山形市立第二小学校のPTA活動ではアイススプーンを制作しました。

また、令和6年度の新たな取り組みとして、子育て支援施設で事前募集した子供たちに県民の森で森林散策と「ランダム積木」を体験してもらいました。これまでは屋内で木材に触れ合う活動のみとなっていました。が、県民の森での森林学習と併せて活動することで、森林と木材を結び付けて学習する「木育」の理想の形を実現することができました。

さらに、市町の緑環境税活用事業と連携し、小学校の授業でマグネット、コマ作り等を実施しました。



山辺小学校でのコマ作り

◆今後の計画

令和7年度からは子育て支援施設に加え、木造公共施設や企業とも連携し、子供だけでなく大人も対象としたプログラムを開発します。

◆おわりに

これからも、身近に木に触れる体験と木を通じて木の良さを伝えるため、むらやま木育を進めてまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

作業現場の安全確保を目指して 『チェーンソー防護ブーツ研修会』を開催

◆はじめに

チェーンソー防護ズボンやチャップスといった切創防護装備の着用が令和元年8月1日から義務化されました。しかし、足を守るチェーンソー防護ブーツ（以下「防護ブーツ」）は、着用が努力義務であることや地下足袋に比べて重く急斜面で歩きにくいという理由で普及が進んでいません。そこで、事故防止に有効な防護ブーツについて、メーカーの違いによる重さや形状を比較するとともに、現場における歩き方の研修会を10月28日（月）に最上広域森林組合と真室川県有林にて開催しました。

◆研修内容

講師には、東北農林専門職大学農林業経営学部森林業経営学科の小山敢准教授をお迎えし、受講を呼びかけたところ、各事業体から12名の参加がありました。

①「防護ブーツの特性及びその必要性」

チェーンソーによる切創事故の約8割が下肢及び足首・甲等で発生していること、愛用者が多い従来の地下足袋では、防護機能が不足してい

ること、價格的にも年単位で比較すると防護ブーツの方が安価になることが示されました。

②「各メーカーの防護ブーツ試着」

今回は防護ブーツメーカー5社からサンプルをお借りして実際に試着してもらいました。参加者からは「思った以上に足首が曲がる」「そんなに重くない」といった評価をいただきました。

③「現場での歩き方講習」

場所を真室川県有林に移し、実際の急斜面での歩行方法についてご教示いただきました。防護ブーツを所有していても使用していなかった参加者を対象に、接地の仕方や立ち上がり姿勢等を教習したところ、実用的なレベルまで上達しました。

◆おわりに

県内では初の試みとなった今回の研修会ですが、受講者から、使用にあたって、好感触を得ることができました。

今後、防護ブーツが普及し、現場における安全な作業が確保されることを期待しています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部 Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 難波真悟

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

PELLET Watarai

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!
総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業



詳しくは
こちらから



(株)渡会電気土木 代表取締役 丹治真彦

本社：山形県鶴岡市下山添字一里塚36
☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345
田代工場：鶴岡市田代字広瀬16-2
☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786
庄内工場：東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

今年も力作が揃いました

「標語・ポスターコンクール」

置賜林業推進協議会では、平成17年度から緑化・育樹運動の推進や森林保全の意識高揚を図るため、「置賜地域緑化運動・育樹運動標語及びポスター原画コンクール」を実施しています。

近年、SDGsを学ぶ機会が増え環境や緑化への関心が高まっています。このコンクールでも多くの児童・生徒が緑化に関心を持ち取り組んでいただいています。

20回目となる今年度は、標語部門14校260点、ポスター原画部門小学生の部8校39点、中学生・高校生の部8校122点の応募がありました。

9月18日の審査会では、「緑や森林、動植物をよく観察している」、「社会的な循環も考えていることが感じられた」などの感想があり、次のおり各部門の受賞作品が決定しました。



審査会の様子

☆標語部門

最優秀賞
豊かな緑 使い、育て 循環の輪

飯豊町立第一小学校
5年 嶋貫 新大さん

優秀賞
ひろげよう ちいさなきから

みどりのだいぢ
高島町立糠野目小学校
1年 平間 忠明さん

優秀賞
育てよう 緑の大地とみんなの未来

山形県立米沢工業高等学校
1年 加藤 美鈴さん

入選
しんこきゆう みどりのおかげで

さもちい
飯豊町立第一小学校
2年 高橋 空さん

入選
世界中 緑でうめよう きみの手で

飯豊町立飯豊中学校
3年 竹田 桜葵さん

入選
希望の芽 空に広がる 夢の枝

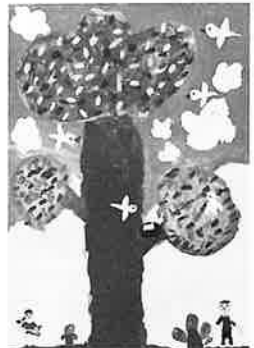
飯豊町立飯豊中学校
3年 手塚 結人さん

入選
つなげよう 育樹という名の

緑のタスキ
山形県立米沢工業高等学校
1年 富塚 悠真さん

☆ポスター原画部門

(小学生の部)



「きれいなみどり」
長井市立長井小学校
2年 神戸 國光さん

優秀賞



「森をだいに」
高島町立糠野目小学校
4年 大友 柚宜さん

入選



「すくすくそだてあかちゃんのみ」
米沢市立愛宕小学校
1年 日比 康寛さん

☆ポスター原画部門

(中学生・高校生の部)



「努力の結晶」
長井市立長井南中学校
3年 大津 壮亮さん

優秀賞



「私達がつなぐ緑」
米沢市立第二中学校
1年 長谷部 玲凪さん

入選



「緑でつなぐ私たちの未来」
川西町立川西中学校
2年 山口 鈴舞さん

入選



「未来のために」
川西町立川西中学校
1年 渋谷 凜花さん

(置賜総合支庁森林整備課)

庄内版「やまがた木育」の取組み (地域ふれあい講座×木工品を創る)

◆はじめに

庄内総合支庁では、管内の児童・生徒を中心に「地域ふれあい講座」(以下「講座」)を実施しています。これまでの講座は海岸林をテーマに講話と森林整備体験をセットで行ってきましたが、今回は、森林への理解をさらに深めることを目的として、従来の講座に「木工」の要素を加え、鶴岡市立西郷小学校で庄内版「やまがた木育」の取組みを行いました。

◆地域ふれあい講座について

講座は平成17年度から始まったもので、当庁が行う事業や新しい制度について地域の皆様に理解していただくことを目的としています。森林関係では、①「森林の働き」、②「庄内海岸林」、③「松くい虫」の3つの講話と、森林整備体験を組み合わせ、森林・林業に関する普及・啓発を行っています。

◆西郷小学校での取組みについて

西郷小学校では、5月、7月、8月に3回の講話を実施しました。さらに、この講話を基に10月には森林整備体験を行いました。この活動の中で、児童たちは樹名板を作成し、



の名称や特徴由来について学び森林への理解を深めることができました。児童からは、「木の

名前を覚えられてうれしかった」などの声が寄せられ、楽しく学べた様子がかがえしました。

◆おわりに

今回の取組みでは、「森や木に触れる」・「森の働きについて知る」活動に加え、「木工品を創る」活動を導入することで、県が掲げる「やまがた木育」の基本理念である「触れる」、「知る」、「創る」の3つの要素を取り入れた活動を展開できました。今後もこうした取組みを通し、次世代を担う児童に森林への関心を高める活動を継続してまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

庄内地域のスマート林業 ドローン松くい虫被害木調査研修会開催

◆松くい虫被害木調査のICT化

庄内地方の松くい虫被害は、令和5年に過去最高の被害となりました。これまでの被害量調査では、被害木の位置、本数、胸高直径等の計測を人力で行い、毎年多くの労力と時間を費やしてきました。

スマート林業の進展により、森林病害虫の被害調査分野では、ドローンを活用して上空から探査することにより、探査漏れの防止と作業時間の効率化や省力化につながる事が期待されています。

そこで、令和6年10月9日(水)



ドローンによる松くい虫被害木探査の実演

に酒田市のクロマツ林でドローンを使用した松くい虫被害木調査の研修会を開催しました。

◆ドローンによる被害木探査と解析

現地では講師の森林研修センター村川直美子研究員がドローンによる被害木探査の実演を行なった後、事前に取得した被害木位置の座標からGNSS受信機とグーグルマップを活用して被害木を探査する実習を2班に分かれて行いました。室内研修では、講師として樹木医であり松保護士の山口真之介氏をお招きし、ドローンで撮影した被害木の画像解析について講義していただきました。

◆参加者の感想

参加者からは、「ドローンやGNSS受信機についてよくわかった、機会があれば仕事で使ってみたい、人力よりは速いと思った、実行した後の結果を含めた研修を開催して欲しい、等の感想がありました。庄内総合支庁ではより効果的、効率的に松くい虫被害対策を実施していくため、今後もスマート林業を推進してまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

高性能林業機械メンテナンス研修会を開催

「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン」（令和3年度制定）では令和12年度の県産木材供給量90万³m³（令和5年度59・1万³m³）の目標を掲げておりますが、その達成に大きな役割を果たすのが高性能林業機械です。高性能林業機械の導入は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働災害の低減や労働環境の改善に大きく貢献します。

県内でも高性能林業機械の導入が年々増加しており、令和4年度における保有台数は216台となっております。最も多く保有されているのはフォワーダ（積載式集材車両）77台、次に多いのがハーベスタ（伐倒造材機）50台となっております。高性能林業機械は、故障すると高額な修繕費がかかるため、日常の保守点検が重要ですが、オペレーターに点検の技能がなく、機械の維持管理がやりにくいとの声が多くあります。

山形県森林協会では、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構の協力により、県内各地で高性能林業機械のメンテナンス研修会を開催しておりますが、本年度は置賜地域の林

業事業体の希望により、プロセッサとフォワーダのメンテナンス研修会を開催しました。

研修会は、11月26日に置賜総合支庁との共催で、西置賜ふるさと森林組合白鷹支所において開催しました。研修会には置賜地域の林業事業体や行政関係者等16名の参加がありました。講師は㈱レンタルのニックンで高性能林業機械の整備に従事している職員が担当し、整備担当者の視点から、林業事業体で高性能林業機械を毎日使っている方々にいかに効率よく、故障を少なくし、上手に使うかアドバイスをさせていただきました。

◆プロセッサ

プロセッサは、チェーンソーで伐倒した材の枝を払い、あらかじめ決められた長さに玉切りを連続して行い、玉切りした材の集積作業を一貫して行う高性能林業機械です。油圧シヨベル（ベースマシンの）のバケットの部分にプロセッサのアタッチメントを取り付けた構造で、作業開始前点検記録簿に基づいてベースマシンのプロセッサに分けて行われました。参加者に普段どのような点検を行っ



チェーンソーの張りを確認

ているか聞きながら、普段の点検で見過ごしてしまいがちで、大きな故障に繋がるおそれのある箇所について説明してもらいました。特に最近火災事故が多く発生しているのとこので、木くずがたまりやすい場所に気を付けるようにとの説明がありました。

◆フォワーダ

県内で一番多く使用されている高性能林業機械であるフォワーダは、玉切りした材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械で、車両部分とグラップルに



フォワーダのエンジンオイル点検

分けて点検を行いました。特に車両部分については、エアークリーナーの点検、エンジンオイルの量の確認など参加者実際にやってもらい、確実に実施するように説明していました。

研修が終わり、参加者からは「とてもわかりやすく丁寧に説明していただいた。普段のメンテナンスについて知ることができました」、「実際に林業機械を操作できたのがよかったです。引き続きやってもらいたい。役に立つ研修であった」などの感想が寄せられました。

〔山形県森林協会〕



山形県の古木・名木 143
梨木平のナシ
長井市草岡

今回は長井市草岡のナシの原種の古木を紹介いたします。今私たちが食べている果物は、明治時代以降に海外から導入されたものがほとんどですが、ナシとカキは日本在来の原種に由来する果物です。
ナシの原種はイワテヤマナシとニホンアオナシと考えられており、梨木平のナシはイワテヤマナシの系統です。長井市の天然記念物に指定されており、樹高は13m、根本周は3.3m、幹周は2.6m、枝張は東西で13.7mの小柄な名木ですが、山形県を代表するナシの原種です。近くには結城哀草果の歌碑があります。
高原に枝ひろげたる山梨の独立樹あり鳥らあつまる 哀草果

〔山形県森林協会〕



木を未来へつなぎ 未来を木でつなく。

県産材JAS《AD・KD》製品自信あります。ご用命承ります。

阿部製材所

検索



株式会社

阿部製材所

本社(酒田)／北港工場／やまがた中央木材市場

JAS認証工場：合法木材等認定事業者：やまがたの木認定事業者

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757

山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)

FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

トンビマイタケ菌床
まいたけ櫓木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他